

2025年1月期 第2四半期(中間期)決算説明資料

(第15期 2024年2月1日～2024年7月31日)



2024年9月12日

丸善CHIホールディングス株式会社

3159 <https://www.maruzen-chi.co.jp/>

I	2025年1月期 第2四半期(中間期)決算の概要	2
II	中期経営計画の進捗状況	13
	Appendix	22



I 2025年1月期 第2四半期(中間期)決算の概要



I -1. 当第2四半期(中間期)サマリー 累計業績(連結) 前年同期比

- ▶ 当第2四半期は、店舗・ネット販売事業、および図書館サポート販売事業が堅調に推移したものの、文教市場販売における教科書販売など書籍販売、および出版事業の新刊売上が減少しました。
- ▶ その結果、売上においてはほぼ前年同期並みとなる**84,919百万円**。営業利益については、対前年同期比97.1%の**2,052百万円**となりました。

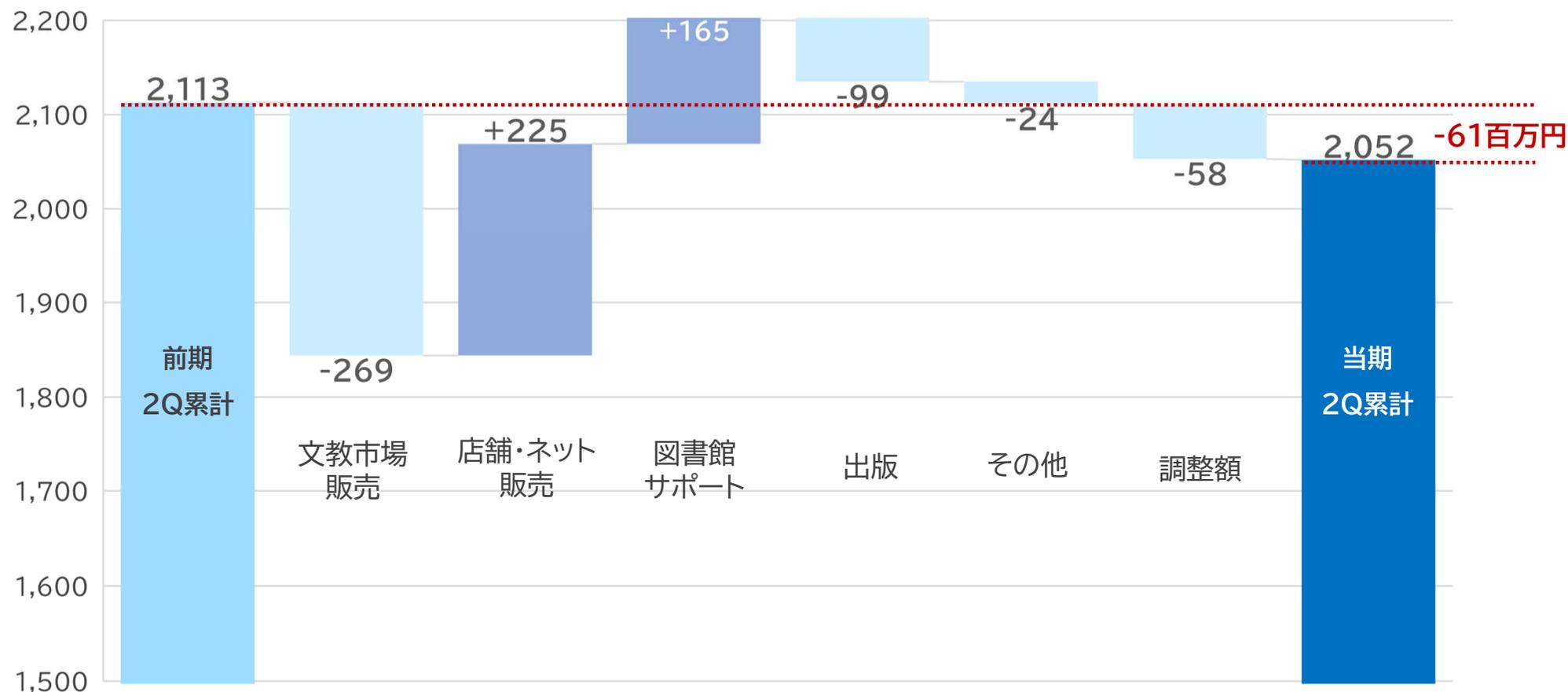
◆当第2四半期累計 前年比較

(単位:百万円)

第2四半期(累計)	売上高	営業利益	営業利益率	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益
前年同期実績	84,942	2,113	2.5%	2,136	1,225
当第2四半期累計実績	84,919	2,052	2.4%	2,064	1,233
対前年同期 増減	-23	-61	0p	-71	+8
対前年同期 比率	100.0%	97.1%	—	96.7%	100.7%

▶ 営業利益においては、堅調な図書館サポート事業に加え、店舗・ネット販売事業において、リユースFC事業や雑貨・文具など粗利率の高い商品の拡販に取り組み、利益の改善を進めました。一方、文教市場販売の減益、および出版事業の損益悪化が影響し、前年度に比較して営業利益は微減となりました。

◆営業利益 対前年増減 (単位:百万円)





I-3. 当第2四半期(中間期)サマリー 2025年1月期業績見通し

➤ 2025年1月期には、図書館サポート事業で図書館人材の確保・育成のための処遇体系見直しを行うことなどにより営業利益は減益の見通しですが、親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産売却益が特別利益として計上されることなどにより、増益となる見込みです。

◆業績予想

(単位:百万円)

2025年1月期 通期	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期純利益
期初業績予想	164,500	3,400	3,350	3,900
業績予想 (本日時点)	上記の期初業績予想から変更なし			
(参考) 前期通期実績	162,927	3,617	3,681	2,194

◆株主還元

【方針】

当社グループでは、総還元性向を株主還元の指標と位置づけており、経営基盤の一層の強化に努めながら、中期経営計画において示すとおり、2029年1月期までに**配当性向30%**の実現を目標とし、安定的かつ継続的な配当の実施に取り組んでおります。

【利益配分】

2025年1月期期末配当につきましては、2024年3月14日に公表いたしましたとおり、**1株当たり3円**の配当を実施する予定としております。



I-4. 当第2四半期(中間期)サマリー セグメント別損益ハイライト

◆2024年2月1日～2024年7月31日

(単位:百万円)

連結	売上高			営業利益		
	当期	前期	対前比	当期	前期	対前比
①文教市場販売事業	25,994	26,748	97.2%	1,824	2,093	87.2%
②店舗・ネット販売事業	32,769	32,752	100.1%	314	89	351.6%
③図書館サポート事業	18,655	17,715	105.3%	1,530	1,365	112.0%
④出版事業	1,945	2,067	94.1%	▲65	34	---
⑤その他事業	5,552	5,658	98.1%	207	231	89.9%
消去又は全社				▲1,758	▲1,700	---
合計	84,919	84,942	100.0%	2,052	2,113	97.1%



I -5. 主要事業概況 ①文教市場販売事業

(単位:百万円)

第2四半期 (累計)	当期	前期	対前期
売上高	25,994	26,748	97.2%
営業利益	1,824	2,093	87.2%
営業利益率	7.0%	7.8%	-0.8p

- 学術研究や教育向け、洋書や電子書籍を含む各種出版物販売、情報資料の提供
- 研究者支援ソリューションの提供
- 図書館用書籍の販売、書籍データベース (TRC MARC) の作成、販売
- 教育・研究施設、図書館などの設計・施工、大学経営コンサルティングなど各種ソリューションの提供
- 大学内売店の運営、教科書販売

- 図書館向け書籍販売は堅調に推移しましたが、電子図書館関連に前年のような伸びが見られませんでした。
- 大学向け販売事業では、教育研究施設、図書館などの設計・施工は前年に比べ案件が増加しましたが、コロナ禍後の教科書売上の落ち込みが継続しました。
- 結果、売上高は対前期比97.2%の**25,994百万円**。営業利益は同87.2%の**1,824百万円**となり、減収減益となりました。
- 下期以降、販管費の抑制に加え、**電子教材や電子図書館、外国雑誌等に注力し、収益確保を進めます。**



I-5. 主要事業概況 ②店舗・ネット販売事業

(単位:百万円)

第2四半期 (累計)	当期	前期	対前期
売上高	32,769	32,752	100.1%
営業利益	314	89	351.6%
営業利益率	1.0%	0.3%	+0.7p

- 全国に「丸善(MARUZEN)」「ジュンク堂書店」ほかのブランドによる店舗網を展開し、和書、洋書、文具・雑貨等を販売。グループ全体の店舗数は109店舗。
- ホビー系リユース商品の買取・販売「駿河屋」のFC店舗を運営

- ▶ 書籍販売が堅調に推移したことに加え、高利益率のホビー系リユース事業の導入、オリジナル雑貨などの売場拡大(駿河屋FC店舗:新規2店舗、合計5店舗。EHONS:新規4店舗、合計7店舗。)を積極的に進め、営業利益を大きく改善しました。
- ▶ 7月には丸善ジュンク堂書店ネットストアをオープンし、自社サイトによる店舗での「置きサービス」を開始しました。
- ▶ 結果、売上高は、前年並の32,769百万円、営業利益は対前期比351.6%の314百万円となりました。
- ▶ 下期以降、ネットストアでの「取り寄せサービス」の開始など、オンラインサービスの拡大や、ホビー系リユース事業、文具・雑貨の拡販等で収益構造の更なる転換を図ります。



I-5. 主要事業概況 ③図書館サポート事業

(単位:百万円)

第2四半期 (累計)	当期	前期	対前期
売上高	18,655	17,715	105.3%
営業利益	1,530	1,365	112.0%
営業利益率	8.2%	7.7%	+0.5p

- 公共図書館、大学図書館の業務(カウンター業務、目録作成、蔵書点検等)の請負
- 指定管理者制度による図書館の運営業務
- PFIによる図書館運営業務および人材派遣

- ▶ 公共図書館、大学図書館、学校図書館とも受託館数は堅調に増加し、図書館の受託数は、期初1,806館より、20館増加(公共図書館623館、大学図書館240館、学校図書館他963館/7月末現在)しました(公共図書館、大学図書館とも、業務委託における当社シェアはトップクラス)。
- ▶ 結果、売上高は、対前期比105.3%の18,655百万円、営業利益は、同112%の1,530百万円となりました。
- ▶ 人件費の高騰の中、スタッフの確保が課題であり、下期以降賃金ベースアップなどの対応を実施予定です。中核人材を確保しつつ、業務の効率化や品質向上による、受託館数の維持・拡大を進めます。



I-5. 主要事業概況 ④出版事業

(単位:百万円)

第2四半期 (累計)	当期	前期	対前期
売上高	1,945	2,067	94.1%
営業利益	▲65	34	-
営業利益率	-	1.6%	-

- 丸善出版(株)の出版事業
『理科年表』等の理工系分野中心の専門書、事典、便覧等の刊行、およびDVDの発売
- (株)図書館流通センター子会社 (株)岩崎書店
絵本・童話などの児童書、図書館向けの書籍の刊行

- 理工系専門書(丸善出版(株))および児童書(株)岩崎書店)は、前年度を上回る新刊100点(前年度81点)を刊行しました
- 理工系専門書は、教科書の売上が厳しく推移したことで、売上、利益ともに悪化し、児童書についても、厳しい市場環境に加え、売筋絵本の刊行遅延が響き、前期を下回りました。
- 結果、売上高は、対前期比94.1%の**1,945百万円**、損益面では**▲65百万円**の営業損失となりました。
- 下期以降、児童書については、**課題図書**の選定などもあり、売上回復を見込んでいます。
- 理工系専門書は、遅延している新刊の刊行や、公共図書館向け商品および電子書籍関連に注力し、利益の確保を進めます。



I-5. 主要事業概況 ⑤その他事業

(単位:百万円)

第2四半期 (累計)	当期	前期	対前期
売上高	5,552	5,658	98.1%
営業利益	207	231	89.9%
営業利益率	3.7%	4.1%	-0.4p

- 書店、その他小売店舗向けに、企画・設計デザイン、建設工事、内装工事、店舗什器、看板、ディスプレイ等のトータルプランニング
- PC、スマートフォンの修理、システムサポートおよび各種周辺サービスの提供
- 総合保育サービス
- 会計・税務に関する電子専門書籍のサブスクリプションサービス

- 総合保育サービス(株)図書館流通センターの子会社である(株)明日香)事業は、保育園市場の堅調な成長に伴い、期初の計画を上回り、**増収増益**となりました。
- Apple製品・PC修理等(株)図書館流通センターの子会社であるグローバルソリューションサービス(株)事業においては、不採算事業からの撤退に加え、**スマートフォン市場における修理取り扱い機種**の拡大などにより、収益力が復調しました。
- 一方、書店・その他小売店舗内装事業については、前年のコロナ禍後における顧客の出店意欲の回復による案件増からの反動減となりました。
- 結果、売上高は対前期比98.1%の**5,552百万円**、営業利益は同89.6%の**207百万円**となりました。
- 昨年サービスを開始した、会計・税務に関する電子専門書籍のサブスクリプションサービス「丸善リサーチ」は、当期は先行費用により営業赤字ですが、7月に会員数が4,000名を超えるなど順調に成長しています。



MARUZEN CHI Holdings

I-5. 主要事業概況 ⑤その他事業 グループ企業の紹介

Apple製品やパソコンの修理・アップグレード設定等の事業



常にお客様の満足と最も笑顔の多い会社を目指します

社名:グローバルソリューションサービス株式会社

所在地:東京都港区海岸3-9-15 LOOP-Xビル17F

代表取締役:逸見 尚弘

資本金:1億5320万円

年商:54億円(2023年度)

事業内容:IT機器の修理事業、法人向けITソリューション事業

- IT機器の導入から廃棄まで全てをカバーできる「高品質なワンストップサービス」が魅力
- 「修理」に「延長保証」と「サポートデスク」を組み合わせたサービスモデルの展開が好調



全国にApple製品修理店舗を展開。高い技術力と品質により26年間の運営実績



さらに、国内初の法人向けSurface修理サービスプロバイダに認定

総合保育サービス



明日香

保育・子育て支援のソリューションパートナー

社名:株式会社明日香

所在地:東京都文京区小石川5丁目2番2号 明日香ビル3F

代表取締役:萩野 吉俗

資本金:2,000万円

年商:30億円(2023年度)

事業内容:保育施設運営、保育人材サービス、居宅訪問型保育

- 一人一人の子育て支援から、子育てしやすい街づくりまで、子育てしやすい社会の実現に貢献



近年は温暖化等の異常気象により、子どもたちが天候を気にせず、いつでも思い切り体を動かして遊べる屋内こども広場のニーズが高まっています。



Ⅱ 中期経営計画の進捗状況



Ⅱ-1. 中期経営計画の概要

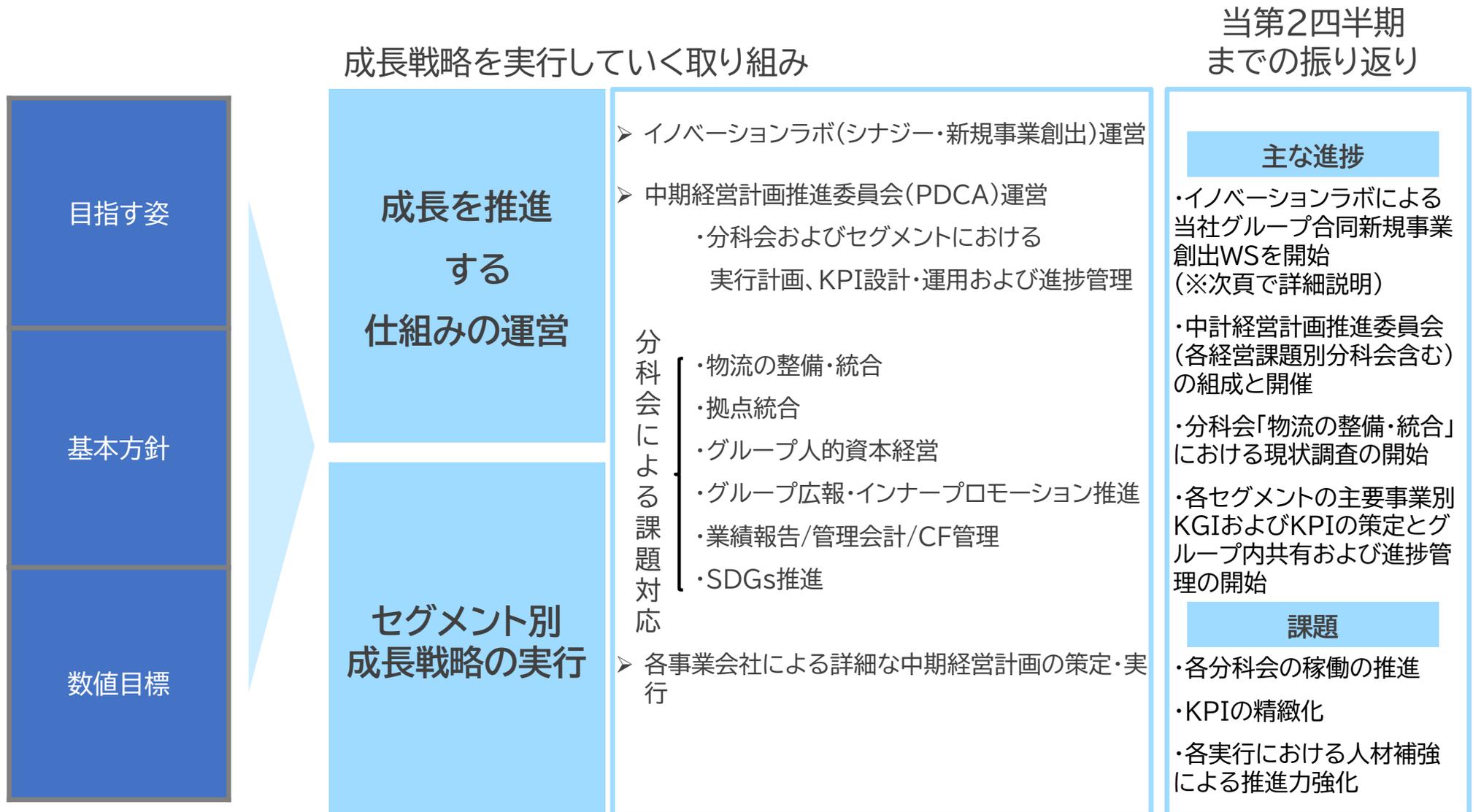
- 2024年3月に策定した中期経営計画で掲げた3つの基本方針に沿った行動方針に基づき、成長推進の具体的なしくみを構築・運営することで成長戦略を実行していきます。

目指す姿	知の生成と流通に持続的に貢献するための成長力と資本効率の向上				
基本方針	①グループ資産の活用促進	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 当社グループとして取り組むべき協業テーマを定め、グループ横断型のプロジェクトチームにより推進する ➤ 長年に亘り培ってきたグループの“資産(商品・サービスやノウハウ、ブランド、人材等)”を有効に活用する ➤ これらを経営基盤として定常化するための仕組みをつくる 			
	②成長領域の創出	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 新しい価値を生む可能性のあるビジネスプランやアイデアに対し、挑戦しやすく、事業が確実に成長ができるよう、事業育成・支援環境の整備をおこなう ➤ 市場の変化や顧客の行動変容に対し、最新技術やデータを活用した事業開発を推進する ➤ 既存事業の機能補完や提供価値の向上をスピード感をもって推進するため、事業提携やM&Aを積極的に実施する 			
	③収益構造の転換	<ul style="list-style-type: none"> ➤ セグメント別に事業ポートフォリオを定め、既存事業の収益性向上、および成長領域への積極的な投資をおこない、事業構造の転換を図る ➤ さらに、各事業目標達成のため、進捗管理の仕組みを整備する 			
数値目標 (2029年1月期)	売上高 2000億円	営業利益 85億円	営業利益率 4.2%	ROE 7.5%以上	—
セグメント別の数値は売上目標※	文教市場販売 500億円	店舗・ネット販売 700億円	図書館サポート 480億円	出版 50億円	その他 290億円

※セグメント別売上には、セグメント間取引調整額(-20億円)が含まれていません。

Ⅱ-2. 中期経営計画 当第2四半期(中間期)の進捗概要

▶ 成長戦略の実行のために具体的な取り組みと、当第2四半期の振り返りは次のとおりです。



- ▶ 5月より、当社グループ合同にて新規事業創出ワークショップ(WS)を開始し、シナジーによるグループ経営資源の活用と、次世代を担う事業の創出を目指します。



ワークショップの様子

◆グループ事業会社合同で新規事業創出WSを実施

このWSはグループ合同では初めての取り組みであり、各事業会社より合計35名が参加。各社の強みや実績を共有し、デジタル技術や事業創出のための様々なフレームワークを活用した議論や企画立案を行っています。

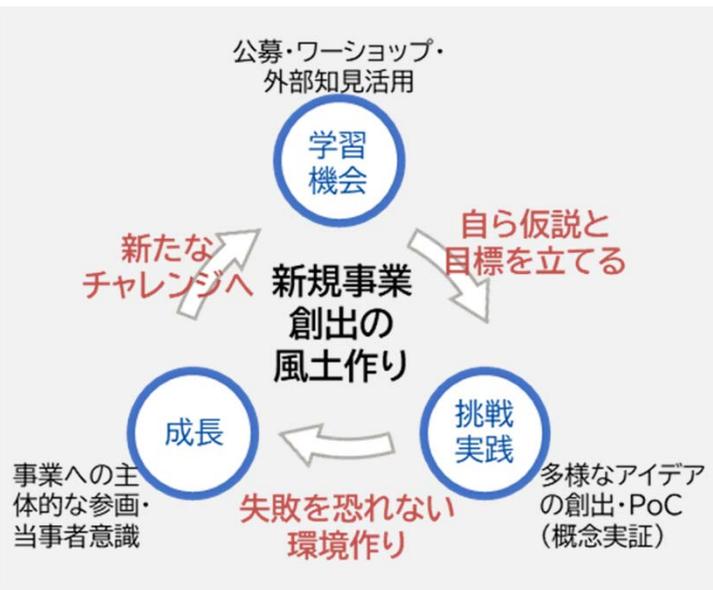
今秋以降、WSで提案された事業企画の具体化・精緻化を進め、有望な企画はイノベーションラボの支援により事業化を進めていく予定です。

◆学習・機会/挑戦と成長をスパイラルさせ、挑戦する組織風土を醸成し、イノベーション人材を創出

イノベーションラボでは、WSの開催だけにとどまらず、左図で示すとおり、アイデア公募、外部知見の活用サポートなど、新規事業を創出しやすい環境を整備し、今後さらに参加機会を広げていきます。

これらの取り組みにより、従業員の多くが新規事業の創出に関わることで、新しい事業に挑戦していく風土を醸成し、イノベーション人材の育成を促進していきます。

また、これらの活動は、既存ビジネスの成長にも欠かすことができない、新たな視点の醸成や知見の蓄積、アイデア創出にもつながっていきます。



(左図「当社グループが考える新規事業創出の風土づくりの仕組み」)



MARUZEN CHI Holdings

II-3. 中期経営計画の進捗② 成長領域の創出

成長領域の創出

▶ デジタル技術を活用し、書籍コンテンツを利用者に最適なかたちで提供する新サービスとして「丸善リサーチ」をスタート。まずは税務・会計分野から事業を立ち上げています。



「丸善リサーチ」は、当社グループの(株)丸善リサーチサービスと、(株)Legal Technologyが共同にて2023年10月に提供を開始した会計・税務書籍の読み放題サービス

信頼性の高い電子書籍/雑誌を利便性の高い機能を持ったインターフェースで提供し、会計・税務の研究業務を効率化

公認会計士・税理士・M&A専門家・経理実務担当者を中心に、サービス開始以来、5か月で会員数3,000名を突破し、2024年7月現在(サービス開始後10か月)、提携出版社は20社を超え、税務・会計の専門家を中心に、法人・個人会員数は4,000名を突破



リサーチ業務において機能的で使いやすいインターフェース



丸善リサーチ独自のコンテンツも掲載

- ▶ 店舗・ネット販売事業では、書籍コンテンツと親和性があり、粗利率の高い、非書籍商材やサービスの展開により、収益構造の転換を進めます。



駿河屋 梅田茶屋町店

1

ホビーグッズの駿河屋と書店の同時展開により、リアル店舗にしかない体験価値を提供

フィギュアやゲーム、トレカ、キャラクター雑貨、映像ソフト等に強い駿河屋と、マンガ・コミックやホビー関連の書籍を幅広く取り扱う丸善ジュンク堂書店の強みの相乗効果を狙った展開を進めます。

幅広い年齢層の来店を促し、コミックなど親和性の高い売場の回遊性を高め、店舗への来訪によってしか得られない「出会い、楽しみ」による体験価値を提供し、売り場の収益効率の向上を図ります。

2

人気絵本の世界をオリジナル企画によりコンテンツ化

EHONSは、幅広い世代に認知度が高い人気絵本の主人公やストーリーをモチーフとした文具や雑貨を取り扱い、雑貨商品の70%以上がオリジナル企画商品で、ここでしか買えない商品の取り揃えが強みです。

現在、全国に書店のインショップとして7店舗展開(7月現在)しており、今後もオリジナル商品比率を上げ利益率を高めると共に、独立店舗や海外進出を視野に入れ、書籍に由来した雑貨やサービスなどの事業収益の拡大を図ります。



EHONS UMEDA

3

リアルとネットの強みを活かした新しいオンライン事業を目指す

ハイブリッド型書店「honto」における紙の書籍の通販終了を受け、7月に丸善ジュンク堂書店ネットストアをオープンしました。

ネットストアで検索した店舗の書籍在庫を、レジで受け取れる「置きサービス」を先行リリース。今秋以降、店舗に在庫のない書籍の「取り寄せサービス」やECなどサービス拡充を続け、デジタル技術により、リアル店舗の魅力とネットの強みを融合させたリテール戦略を推進します。

MARUZEN
JUNKUDO

Ⅱ-3. 中期経営計画の進捗④ セグメント別取り組み(1)

◆文教市場販売事業

取り組み		中計基本方針
5月	(株)図書館流通センターが埼玉県久喜市立図書館において、生成AI蔵書検索システムの実証実験を開始(AIを活用した蔵書検索や書籍のレコメンド機能により読書への興味促進を目指す)	成長領域の創出
5月	丸善雄松堂(株)と奈良県教育委員会が、高校生2万人へ電子書籍を活用した新しい「まなび」の場を提供開始(丸善雄松堂の電子図書館サービス(Maruzen eBook Library)を活用して いつでも・どこでも新たな知識の習得ができる環境作りを支援)	成長領域の創出
5月	丸善雄松堂(株)がピアソン・ジャパン(株)と電子教科書サービスの事業検証を開始(ICT技術を活用した学修環境の構築・教育のDX化を支援)	成長領域の創出 収益構造の転換
7月	(株)図書館流通センターが提供する国内導入実績No.1の電子図書館サービス「LibrariE & TRC-DL」に、オトバンクのオーディオブックを搭載(読書バリアフリー推進に向けて連携、「SDGs 読書プロジェクト」～誰もが読書をあきらめなくてよい社会～の実現を目指す)	成長領域の創出

Ⅱ-3. 中期経営計画の進捗④ セグメント別取り組み(2)

◆店舗・ネット販売事業

取り組み		中計基本方針
3月 以降	アニメ・ホビー商材を取り扱う「駿河屋」FC展開。 3月 MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店内に「駿河屋 梅田茶屋町店」、「駿河屋 天文館店」オープン（24年7月末合計5店舗運営）	<div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">成長領域の創出</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center;">収益構造の転換</div>
4月 以降	大人も楽しめる絵本と雑貨の空間「EHONS」展開 4月 EHONS IKEBUKURO・EHONS HIROSHIMA2店舗同時オープン 6月 EHONS KICHIJOJI オープン 7月 EHONS SHIZUOKA オープン (24年7月末合計7店舗運営)	<div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">成長領域の創出</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center;">収益構造の転換</div>
5月	ジュンク堂書店 高松店内に「ガシャポンバンダイオフィシャルショップ ジュンク堂書店高松店」がオープン	<div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">成長領域の創出</div> <div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center;">収益構造の転換</div>
7月	丸善ジュンク堂書店ネットストアにて店頭在庫検索・お取り置きサービスを開始	<div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px; text-align: center;">成長領域の創出</div>

Ⅱ-3. 中期経営計画の進捗④ セグメント別取り組み(3)

◆その他事業

取り組み		中計基本方針
2月	丸善雄松堂(株)が大日本印刷(株)とともに福井県敦賀市と多面的な街づくりで連携協定を締結(デジタル技術や空間づくりの実績を活かし、市の文化や歴史に関する学びや観光の新体験創出を目指す)	<div style="background-color: #008080; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">グループ資産活用</div> <div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">成長領域の創出</div>
5月	丸善雄松堂(株)が沖縄県南城市と「南城佐敷(なんじょうさしき)・玉城(たまぐすく)IC周辺地区整備事業」に関する基本協定を締結(公民連携の手法による新たなまちづくり交流拠点の企画開発を推進)	<div style="background-color: #008080; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">グループ資産活用</div> <div style="background-color: #c00000; color: white; padding: 5px; border-radius: 10px; display: inline-block;">成長領域の創出</div>



Appendix



MARUZEN CHI Holdings

当社グループ事業会社とセグメントマッピング

グレー表示は、連結対象主要孫会社

事業会社 \ セグメント	文教市場 販売事業	図書館 サポート事業	店舗・ネット 販売事業	出版事業	その他事業
丸善雄松堂	丸善雄松堂(株)				丸善雄松堂(株) (株)第一鋼鉄工業所 (株)編集工学研究所
図書館流通センター	(株)図書館流通センター (株)図書館総合研究所			(株)岩崎書店	(株)明日香 グローバルソリューションサービス(株) (株)図書流通
丸善ジュンク堂書店		(株)丸善ジュンク堂書店 (株)淳久堂書店 台湾淳久堂股份有限公司			
丸善出版				丸善出版(株) 丸善プラネット(株)	
丸善リサーチサービス					(株)丸善リサーチサービス



MARUZEN CHI
Holdings

本資料には、当社および当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があります。